

令和6年産 特別栽培農産物コシヒカリ栽培しおり

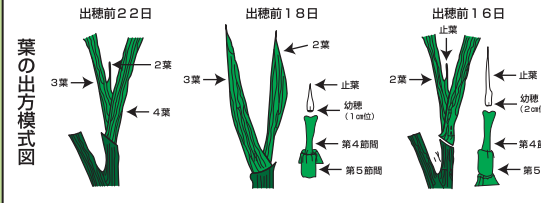
発行 香川県農業協同組合
監修 香川県

○ 基本的取り組み事項

1. 肥料は有機質肥料とする。
2. 農薬による雑草防除、病害虫防除は、防除基準を遵守する。
3. 水稻の栽培管理に当たっては、高品質米生産に重点をおき、田植え、施肥、防除に関する時期、方法等については、栽培しおりを参考とし、基本技術を励行することとする。

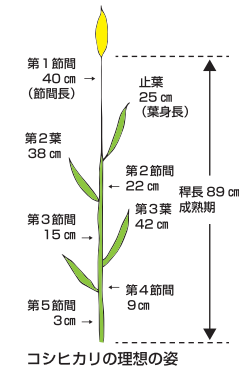
安定生産・高品質化のポイント

① 田植～幼穂形成期 (穂数を確保する時期)		② 幼穂形成期～出穂期 (籾数を確保する時期)	
田植 (本田の準備) 基肥を施用し、土壌の表面の均平化を図っておく。 1. 株間は18cm～22cmを基準とする。 2. 植付本数は、1株当たり3～4本とする。 3. 植付深は、2～3cmの浅植えとする。	水管理 1. 田植後3～4日間は湛水条件で、やや深水管理とする。 2. 除草剤を散布後、5日間は田面が露出しないように湛水状態を保つとともに7日間は落水しなさい。以降水がなくなってから黒乾き程度まで干す。 3. 田植後15日頃に溝切機を用いて、3～5m間隔に溝切りを実施する。溝切り予定1～2日前に落水し、土をやや固めてから行うこと。 4. 田植後15日～30日後は、水田全体に小さい亀裂が入ると入水し、2～3日間湛水。再度水がなくなって、小さい亀裂が出来るまで干す。再び入水し2～3日間湛水をくり返す。 5. 中干しの実施 (1) 開始時期：田植後30日(1株莖数が18～20本の頃) (2) 程度：黒乾きで小さい亀裂が入る程度とする。 なお、土質、稲の生育状況により加減し、過度な中干しは、稲体を消耗させ登熟を悪くするので注意する。 (3) 終了時期：出穂前20～25日頃	水管理 1. 中干し終了後は、2～3日湛水、3～4日水のない状態の間断湛水に努める。 2. 穂肥時期～開花終了までは深水管理とする。 1. 出穂前18日に施用する。 2. 穂肥時期の診断方法 (1) 田植時期から出穂期を予想し、穂肥時期の目安をたてる。 (2) 幼穂の長さ(約1cmの時が適期)などを見て、穂肥時期を決定する。 3. 穂肥の施用量 (1) まいゆうき40kg/10aを基準とする。 (2) 稲の生育状況(葉色、葉身長)、天候などを見て加減する。葉色が濃く、葉身長が長い場合や曇雨天が続いている場合は減らすようにする。	穂肥 1. 出穂前18日に施用する。 2. 穂肥時期の診断方法 (1) 田植時期から出穂期を予想し、穂肥時期の目安をたてる。 (2) 幼穂の長さ(約1cmの時が適期)などを見て、穂肥時期を決定する。 3. 穂肥の施用量 (1) まいゆうき40kg/10aを基準とする。 (2) 稲の生育状況(葉色、葉身長)、天候などを見て加減する。葉色が濃く、葉身長が長い場合や曇雨天が続いている場合は減らすようにする。
水管理 1. 開花終了後は、根ぐされをおこさないよう間断湛水に努め、土中へ酸素(空気)の補給を行う。 2. 粒張りをよくするため、黄熟期以後も、収穫間際まで走り水を行い、土壌の湿潤を保つ。	防除 出穂後にカメシメの被害を受けると斑点米を生じ、玄米の品質低下を招くので、畦畔の雑草は出穂前10日までに必ず刈り取っておく。また、出穂後7日～14日にカメシメ類の防除を行う。	収穫 1. 収穫適期 (1) 出穂後の日数 30～35日 (2) 出穂後の積算温度 900℃～950℃ (3) 籾の黄変率 85～90% 2. 収穫後の生籾は2時間以内に乾燥(施設への搬入)に移す。 3. 高温・直射日光下での地干し、架干しは避ける。	調製 1. 乾燥終了後、籾の温度が常温になってから籾すりを行う。 2. 籾すり作業はゴムロールの間隙を正確に調整して行う。 3. 選別作業では回転式米選機を使い、くず米や碎米を除く。
③ 出穂期～成熟期 (登熟を良くし干粒重を高める時期)		④ 収穫期～調製 (品質の高い米に仕上げる時期)	
水管理 1. 田植後3～4日間は湛水条件で、やや深水管理とする。 2. 除草剤を散布後、5日間は田面が露出しないように湛水状態を保つとともに7日間は落水しなさい。以降水がなくなってから黒乾き程度まで干す。 3. 田植後15日頃に溝切機を用いて、3～5m間隔に溝切りを実施する。溝切り予定1～2日前に落水し、土をやや固めてから行うこと。 4. 田植後15日～30日後は、水田全体に小さい亀裂が入ると入水し、2～3日間湛水。再度水がなくなって、小さい亀裂が出来るまで干す。再び入水し2～3日間湛水をくり返す。 5. 中干しの実施 (1) 開始時期：田植後30日(1株莖数が18～20本の頃) (2) 程度：黒乾きで小さい亀裂が入る程度とする。 なお、土質、稲の生育状況により加減し、過度な中干しは、稲体を消耗させ登熟を悪くするので注意する。 (3) 終了時期：出穂前20～25日頃	防除 出穂後にカメシメの被害を受けると斑点米を生じ、玄米の品質低下を招くので、畦畔の雑草は出穂前10日までに必ず刈り取っておく。また、出穂後7日～14日にカメシメ類の防除を行う。	収穫 1. 収穫適期 (1) 出穂後の日数 30～35日 (2) 出穂後の積算温度 900℃～950℃ (3) 籾の黄変率 85～90% 2. 収穫後の生籾は2時間以内に乾燥(施設への搬入)に移す。 3. 高温・直射日光下での地干し、架干しは避ける。	調製 1. 乾燥終了後、籾の温度が常温になってから籾すりを行う。 2. 籾すり作業はゴムロールの間隙を正確に調整して行う。 3. 選別作業では回転式米選機を使い、くず米や碎米を除く。



(月、日)

稲の作期と管理作業の目安								
作期	田植	間断湛水開始 (田植後15日)	中干し開始	けい酸加里もしくは 塩化加里施用 (出穂前25～35日頃)	中干し終了 (出穂前20～25日頃)	穂肥施用 (出穂前18日)	出穂期	収穫期
早期栽培	4.15	4.30	5.20	6.10	6.16	6.25	7.13	8.13～8.15
	4.25	5.10	5.30	6.15	6.21	6.27	7.15	8.15～8.17
	5.1	5.16	6.5	6.18	6.24	6.29	7.17	8.17～8.19
	5.10	5.25	6.14	6.23	6.28	7.5	7.23	8.23～8.25
短期栽培	6.1	6.16	7.1	7.3	7.10	7.13	8.5	9.5～9.7
	6.20	7.5	7.15	7.17	7.23	7.28	8.15	9.17～9.19



コシヒカリの理想の姿

各器官の伸長

一十の数字は出穂前・後の日数 左は伸長始期 中は伸長盛期 右は伸長終期 () 中は理想の長さ	第5節間 -29 (3cm) 第4節間 -23 (9cm) 第3節間 -13 (15cm) 第2節間 -4 (22cm) 第1節間 +3 (40cm)	○山間部は4～5日 生育が遅れる。 ○曇雨天の多い年は4～5日 生育が遅れる。 ○中苗では3～4日進む。
---	---	--

施肥設計例

例1. 有機質肥料使用の場合 (kg/10a)				例2. 牛ふん堆肥使用の場合 (kg/10a)					
肥料名	総量	基肥 代かき前	穂肥 (出穂前18日)	備考	肥料名	総量	基肥 耕起前	穂肥 (出穂前18日)	備考
しぜんの朝	60	60		○しぜんの朝は代かき前に均一に施用する。	牛ふん堆肥	1,500	1,500	50	○堆肥は田植1カ月前に施用し、すき込んでおく。 ○しぜんの朝は、落水して田植直前に施用し、田植機ですり込む。
まいゆうき	40		40		しぜんの朝	50		40	
					まいゆうき	40			

例3. 発酵鶏糞使用の場合 (kg/10a)				
肥料名	総量	基肥 耕起前	穂肥 (出穂前18日)	備考
発酵鶏糞	150	150		○鶏糞は田植7日前頃に施用し、すき込んでおく。 ○しぜんの朝は、落水して田植直前に施用し、田植機ですり込む。
しぜんの朝	30		30	
まいゆうき	40		40	

土壌改良資材 (kg/10a)	
資材名	基肥
粒状くろがねシリカ	100
苦土一番	40

育苗用肥料・農薬	
育苗肥料名	使用量(1箱当たり)
液体ジャンプ(6-1-3)	12ml

適用病害名	農薬名	使用時期	使用方法、量など
種子消毒	ばか苗病 いもち病	エコホープDJ	浸種前～催芽前 200倍液に 24時間浸漬
育苗期	苗立枯病	タチガレン液剤	播種時1回 500～1,000倍、 500ml/箱

病害虫防除設計「特別栽培基準」				
薬剤名	対象病害虫名	使用時期・回数	散布量	注意事項
Dr. オリゼリディア箱粒剤	いもち病、ウンカ類、ツマグロヨコバイ、ニカメイチュウ、イネミスズムシ	移植3日前～移植当日/1回	50g/箱	箱の上から均一に散布し、葉に付着した薬剤を払い落とし、軽く散水する。
スクミンペイト3	スクミリンゴガイ	発生時 (使用時期、回数に制限なし)	2～4kg	湛水状態で均一に散布する。
いすれか	スタークル豆つぶ	出穂後7～10日 (収穫7日前まで1回以内)	250g/10a	湛水状態(3～5cm程度)で均一に散布し、4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しをしない。
	スタークル粒剤	出穂後7～10日 (収穫7日前まで1回以内)	3kg/10a	湛水状態(3cm程度)で均一に散布し、4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しをしない。
	スタークル顆粒水溶剤	出穂後10～14日 (収穫7日前まで1回以内)	2,000倍 60～150ℓ/10a	動力噴霧器等を用いて散布する。
	スタークル液剤10	出穂後10～14日 (収穫7日前まで1回以内)	8倍 0.8ℓ/10a	無人航空機を用いて散布する。

○葉いもちや紋枯病等が異常発生した場合には、直ちに指導者に届出て、防除は指導者の指示に従うものとする。
 ○畦畔の雑草は稲の出穂前10日までに必ず刈り取っておくこと。出穂後の草刈りは、カメシメを稲の穂に飛来させる原因になるため行わない。
 ○例年、稲こうじ病の発生が多い場については、出穂10日前までにドイツポルダーAを散布する。(2,000倍(60～150ℓ/10a))、(※散布後7日間は落水、かけ流しはしないこと)

雑草防除設計				
薬剤名	適用雑草名	使用時期	使用量・回数	注意事項
いすれか	カチボシLフロアブル	田植直後～9日 (ノビエ2.5葉期まで) (田植後30日までに使用)	500ml/10a 1回	・湛水して畦畔または本田に入ってから原液のまま容器を振って散布する。 ・散布後3～4日間は水深3～5cmを保つ。 ・砂質土壌、漏水田、極端な浅植、軟弱苗では使用しない。
	カチボシ1キロ粒剤51	田植時(田植同時散布)または田植直後～9日 (田植後30日までに使用)	1kg/10a 1回	・散布後3～4日間は湛水状態を保つ。 ・田植時に田植同時散布機で施用、または湛水して手まきもしくは散粒機等で均一に散布する。 ・田植同時散布の場合は、漏水田、強還元田、植え穴戻りの悪い田での使用は避ける。 ・浅植え、浮き苗が生じないようにし、処理後は直ちに入水する。
いすれか	カチボシLジャンボ	田植直後～9日 (ノビエ2.5葉期まで) (ただし、田植後30日までに使用)	小包装(1ℓ) 10個(300g)	・散布後、3～4日間は水深3～5cmを保つ。 ・湛水してから畦畔から小包装のまま10aあたり10個の割合で均等に投げ入れる。 ・薬や浮草が発生している水田では、拡散が不十分となり、薬害の発生や効果が劣る可能性があるため、使用しない。

記載の薬剤の登録内容は令和5年11月1日現在の登録を基に作成されています。容器に記載されている農薬使用基準を確認してその範囲内で使いましょう。やむを得ず追加で防除を行う場合は必ず事前にJAに相談して下さい。

環境にやさしい農業。おいしい米づくり。毎年種子更新100%に取り組みましょう。消費者ニーズに合ったお米を作るため、栽培履歴を正しく記録し、必ず提出しましょう。

土づくりや麦わらは焼かずには焼かずにすき込みましょう。